

郷土芸能復興に向けて

鼓童文化財団は、東日本大震災の被災地の郷土芸能再生、復興を支援する計画を進めています。

私達にできることは何か。

まずは、現地の状況を見聞し、肌で感じるために、岩手県南部と宮城県を訪れた報告をいたします。

報告 ● 千田倫子



●=訪問した市町/以前、公演などでお世話になったことのある方々や教育委員会、東北歴史博物館を訪ね、被災地の芸能の状況を伺った。

長年、東北の学校公演の時に世話になっていた岩手県一関市の関根太鼓店さんを訪ね、情報をいただきながら陸前高田の地域の芸能に携わっていた方々を探して避難所や仮設住宅を廻りました。そこで『けんか七夕』という祭りを愛し、地域を愛してやまない若いお父さんと巡り合うこ

とができました。この祭りのことは、舞台メンバーも以前この地を訪れた時に写真や山車を見せていただいたことがありました。突然おじやました私達が、人の暮らしの拠り所となる芸能をどうにか繋げるお手伝いをしたいのだと、思いを伺ったのだと説明すると、「そういうことだったらいくらでも喋りたいことがある」とおっしゃって、『けんか七夕』のお祭りの時の集合写真(ポランティアの方が泥の中から探して届けてくれたもの)を宝物のように出してきてくださり、その中の子どもから大人までの晴れやかな笑顔から、地域ぐるみで人を育ててきたことがすぐに分かりました。ただその時は、息子さんと少年野球に出かけること、詳しくは後日ということになりました。少年野球をやるほどに回復して良かったです。少年野球をやるほどに回復して良かったです。少年野球をやるほどに回復して良かったです。

五月に入った頃、新聞やインターネットなどで、芸能復興を願う記事や、自ら支援を求める方々の声が出てくるようになりました。芸能の宝庫と言われる土地の、その宝はどのような支援ができたのか。私達にどのような支援ができたのかを検討するため、震災から二ヶ月半が経った五月二八日から四日間、菅野敦司、山中津久美、千田倫子の三名で現地の状況を見てまいりました。

既に高速道路は繋がりが、ガソリンは手に入り、瓦礫をようやく寄せたような道でもバンクすることもなく、私達は陸前高田の被災現場の海際までたどり着きました。この状況にするまで、自衛隊や医療活動された方や、ボランティアなど、これだけの方々の尽力があったかと思えます。そして、被災地の方とそこに直後に入られた方々の目にした悲惨な光景とその時の心持を思うと、今自分がここに困難なく立っていることに後ろめたさを感じつつ、ただ果敢と高田の松原の一本だけ残った松を眺めていました。

東日本大震災後、鼓童文化財団では震災義援金の呼びかけを行い、多くの皆様からお気持ちを寄せていただきました。誠にありがとうございます。五月十日までの期間にいただいた合計額一八万八千八百円を「日本赤十字社」へ送金いたしました。

また、ワン・アース・ツアアの公演会場と『たたこ館』では引き続き募金活動を行っています。こちらは、NPO法人日本エコツーリズムセンターが中心となって結成され、最前線でボランティア活動を組織運営している「RQ市民災害救援センター」の活動支援金として送金させていただきます。

<http://www.rq-center.net/>